



公益社団法人  
大分県薬剤師会

通号 **215**  
vol. **59-1**

おおいた  
**県薬会報**

Journal of  
The Oita  
Pharmaceutical  
Association

一般公開版

**1**

**JANUARY  
2025**

Point of View [視点]  
新年挨拶

会長 中芝 高彦

## 新年挨拶

会長 中芝 高彦



新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また旧年中は大分県薬剤師会の運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の6月22日に行われました定時総会におきまして、安東哲也前会長から会長職を引き継ぎ半年が経過いたしました。昨年の役員改選では、旧執行部の中で、特に重要な業務を担って来られた業務執行理事の先生方が多数引退を表明されたことから、今まで築き上げて来られた事業が途切れることなく機能することを念頭に新執行部において薬剤師会の運営に当たって参りました。そういった中で旧執行部の方が、やり残された課題もございます。

一つは保戸島への薬剤師派遣事業です。この事業に関しましては薬剤師派遣費用、また宿泊施設の賃貸料等の支出がある中で、収入が一切見込めないという赤字事業でした。当初は薬剤師法第19条を守るための薬剤師派遣でしたが、閣議決定において一定の条件はあるものの既得権益は守られたことを鑑み、保戸島への薬剤師派遣の撤退を決定いたしました。津久見市長やその他、関係機関に撤退のご説明をさせていただきました。ただ薬剤師法第19条を死守できたからそれで終わりというのは、我々職能団体としては問題があると思います。これを機に地域医療に貢献する、また第8次医療計画の中でも謳われている「離島・へき地等における薬剤提供のありかた」等を踏まえ、引き続き月に1回ではありますが、薬剤師の派遣は継続してい

きたいと思います。この取り組みは地域支援体制加算の算定要件（11）「地域医療に関連する取り組みの実施」イの（健康相談、生活習慣に係る相談の実施）に値すると考えておりますので基本、地域薬剤師会において、お薬相談・健康相談そして県薬で取り組んでおります心電図測定事業も絡めまして、地域医療に貢献し、島民の健康をサポートして頂きたいと思います。

もう一つの課題は、大分県薬剤師会館増築資金積立金の取り扱いです。本来予定しておりました県薬会館増築につきましては、10年前の計画時点では研修会、講習会等、職能を高める場として広く利用して欲しいとの思いからの計画となっております。しかし新型コロナウイルスの流行により、会館での集合型研修の開催が難しい状況となってしまいましたが、逆にZoom等の導入によるWeb研修会の整備が進んだところであります。現在の状況を見ても会場参加の会員数より、Web参加の会員数の方がかなり多くなっております。そういった現状を踏まえ、執行部の中で当初予定しておりました会館増築よりも、Web環境の整備等、今の形に合わせた使用方法を再考する必要があるのではないか、という考えに至りました。

まず、公益社団法人大分県薬剤師会の事業は大きく3つに分かれていることをお伝えいたし

ます。それは、公益事業、収益事業、法人事業になります。今回の資金積立金の3億円は公益性が94%となる会館増築に使用する予定でした。そのため公益性が高い事業に使用する必要があります。ちなみにそれぞれの事業の公益性ですが、検査センターが17%、薬剤師会事務局が35%、O・P・A薬局が98%となっております。よって今回の積立金の運用がO・P・A薬局に偏ってしまうことをどうぞご理解いただきたいと思います。ただこの積立金を今年度中に全て使用することは難しいので、残額に関しては単年度で無理に使ってしまうよりは、資産購入以外の案も含めて次年度以降へ繰り越し

たいと思います。次年度以降の余剰分の解消案につきましては、引き続き執行部の方で議論しご提案させていただきたいと思います。ご意見のある会員の先生方がおられましたら、各支部の代表であります支部長または代議員の先生方を通してご意見を頂けたら有難く思います。

最後になりますが公益社団法人大分県薬剤師会といたしましては、会員の先生方の為になることを第一に考え、同時に公益性を考慮し大分県民の健康を守ることに尽力してまいりたいと思います。会員の先生方におかれましては、今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



## 視点

新年挨拶 会長 中芝 高彦

## 特集

薬と健康の週間 報告

大分県薬剤師会

豊後高田市薬剤師会 会長 酒井 浩一

国東市薬剤師会 会長 児玉 慎一

杵築速見薬剤師会 会長 菊池 幸助

佐伯市薬剤師会

健康フェア開催報告 佐伯調剤薬局 仲矢侑希子

大分県薬剤師会薬事情報センター

令和6年度 おくすり110番報告

令和6年度 県民公開講座 お薬セミナー 情報委員会 委員長 安部 憲廣

## シリーズ 薬薬連携

ヨシムラ薬局 大隈 亮典

## 地域・職域薬剤師会だより

大分市薬剤師会

令和6年度大分市薬剤師会防災訓練報告 防災委員会 委員長 伊藤 裕子

豊後大野市薬剤師会

大分県総合防災訓練報告 亀島亀齡堂薬局 吉廣 篤郎

検査センターだより

O・P・A薬局だより

薬と健康の週間 報告

10/17・23 木曜日 水曜日

薬と健康の週間

大分県 薬と健康の週間 ホームページは こちらから➡



https://www.pref.oita.jp/soshiki/12610/r6kusuritokennkounosyuukann.html

お薬を飲み忘れたら どうしたらいいですか？

**薬は正しく 使いましょう！**

かかりつけ薬剤師・薬局にご相談ください。

薬に対する疑問・質問を受け付けています。下記番号へお気軽にどうぞ。

**おくすり110番** 受付時間 午前10時～午後3時

10月17(木)・18(金)・19(土)・21(月)・22(火)・23(水)

大分県薬剤師会薬事情報センター TEL097-544-9512

《なお、薬と健康の週間以外の平日も受け付けております》

**認定薬局をご存じですか？**

特定の機能を持つ薬局が認定されており、自身に適した薬局を選択することができます。

**地域連携薬局** 入院時や在宅医療で、医療機関等と連携して対応ができる薬局です。地域の中で安心して薬物治療を受けられるようサポートします。

- 安心して相談ができる設備
- 医療機関と情報共有・連携
- 夜間・休日の対応
- 研修を受講した薬剤師が在籍
- 在宅訪問の対応

**専門医療機関連携薬局** 専門の医療機関と密に連携して、がん等の専門的で高度な薬学管理や個別に対応できる薬局です。\*現在、保険の区分としてがんが定められています。

- 専門医療機関や薬局との情報共有・連携
- 専門性の認定を受けた薬剤師が在籍
- 安心して相談できる設備

大分県内の認定薬局の全数および名称は別冊です

●地域連携薬局：有限会社キムラ薬局(赤松、亀川店)、くらべー薬局(杉野薬局、ふるさと薬局、まよひら調剤薬局、大塚調剤薬局) 協会の認定、保険店、中野調剤、大分県調剤薬師会の中核調剤薬局、日本調剤株式会社、自衛隊医療部、自衛隊医療部、大塚調剤薬局、後門調剤店、富士見が丘店、はまが丘薬局(くすりかみクリニック(調剤科、下郡店)、ゆめ調剤薬局(ななせ店、日科店、まつお店)、まごころ薬局(ゆめが丘店)、ゆめが丘、自衛隊調剤、自衛隊コメディカル)、今永の薬局、佐野調剤薬局、サザン薬局(佐佐木、アイン薬局(大分市佐野店、国東店) ●専門医療機関連携薬局(がん)：有限会社キムラ薬局(佐野)

大分県の認定薬局について詳しくは→URL: https://www.pref.oita.jp/soshiki/12610/nensteyakkyu.html

**県民公開講座「お薬セミナー」**

日時 令和6年10月20日(日) (14:00~16:00) **入場無料!**

場所 コンパルホール4階400会議室 (大分市府内町1-5-38 / TEL097-538-3700)

事前申し込み不要です!(定員100名)

主催者挨拶 ……公益社団法人大分県薬剤師会 会長 中芝 高彦 (14:00~)

一般講演 「令和6年が終わるまでに知っておきたい薬のこと」 (14:05~14:20) ……大分県薬剤師会 情報委員会 副 守尋

大分県薬剤師会からのお知らせ (14:20~14:30) 「簡易心電図測定で早期発見、早期受診」

特別講演 「笑いはおくすりパート3・健康寿命日本一を目指して」 (14:30~15:30) おおいた観光大使 佐伯市宇目町鷹屋神社 宮司 矢野 大和 先生

簡易心電図測定体験コーナー (15:30~)

\*希望者多数の場合、当日測定できない場合がございます。

主催 公益社団法人大分県薬剤師会

連絡先 大分県薬剤師会 薬事情報室 TEL.097-544-9512 mail:jyouho@oitakenyaku.or.jp

《介護・保険・医療・福祉や環境衛生に関する検査なども、かかりつけ薬剤師・薬局にご相談ください》

主催/大分県薬剤師会・大分県医薬品登録販売者協会・大分県医薬品卸業協会・大分県製薬協会 大分県医薬品配置協議会・大分県医療機器協会・大分県・大分市

めざせ!健康寿命日本一!



公益社団法人 大分県薬剤師会



〒870-0855 大分市豊鏡二丁目11番3号 TEL.097-544-4405(代) FAX.097-544-1051

http://oitakenyaku.or.jp

大分合同新聞(2024年10月17日)掲載

## 大分県薬剤師会

日 時：令和6年10月17日（木）7:30～8:30

場 所：大分駅前（北口広場、南口広場）周辺

参加者：大分県薬剤師会、大分県医薬品登録販売者協会、  
大分県医薬品卸業協会、大分県製薬協会、  
大分県医薬品配置協議会、大分県医療機器協会、  
大分県、大分市

概 要：当会から中芝高彦会長をはじめ4名、事務局3名が参加し、  
大分駅前周辺で「薬と健康の週間」啓発リーフレット、カッ  
トパン等を配布し、街頭広報を実施した。



## 豊後高田市薬剤師会

会長 酒井 浩一  
(たかだ調剤薬局)

日 時：令和6年10月17日（木）15:00～

場 所：豊後高田トキハイндastreet前

啓発資材：リーフレット

リハテープ

ウエットティッシュ

参加者：大分県北部保健所 高田保健部 2名

豊後高田市薬剤師会 8名

薬と健康の週間において、地域社会に対する健康啓発活動を実施しました。本活動の目的は、医薬品や薬剤師等の専門家の役割に関する正しい知識を広く国民に浸透させることにより、国民の保健衛生の維持向上に寄与することです。特に、医薬品の正しい使用方法や薬剤師が果たす重要な役割についての情報を提供することに重点を置きました。

今回の啓発活動は、保健所との合同で行われ、街頭での説明会やチラシの配布を通じて、住民

に直接的な情報提供を行いました。活動を通じて、住民からは、薬に関する誤解や疑問が多いことが確認され、薬剤師が身近な相談相手であることを強調する機会ともなりました。また、今後は定期的に同様の活動を行う必要性が認識され、地域社会全体の健康意識の向上に向けた一歩となりました。

この活動を通して、住民との対話を通じて知識の共有が進み、国民の健康管理に対する意識向上の一助となったことが確認されました。



## 国東市薬剤師会

会長 児玉 慎一  
(なのはな薬局)

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してから1年半が経ち、以前のような日常生活が戻りつつあります。しかしながら医療の現場では、決して油断できる状況にはなく、まだ医療従事者の方々が全力で様々な感染症対策に取り組んでいるところです。

特に、高齢者の多い国東市では感染に注意しながら高齢者が孤立しないように行政や地域の方々が協力してサロンや体操教室など様々な活動を活発に行っています。国東市薬剤師会も毎年この活動に参加し、高齢者が集まる集会にお薬の出前講座として年に2～3回講師として薬剤師を派遣しています。

国東市薬剤師会では、10月の「薬と健康の週間」の活動として今まではスーパーやホームセンターなどで様々な年齢層の方に対して啓発活動を行ってきました。そこでは、若い方や急いでいる方が多いせいか反応も鈍く感じました。令和6年度は、高齢者が圧倒的に多い国東市の状況を鑑みて、お薬を正しく飲めていない可能性が高い年齢層に対して活動ができないかと考えました。ちょうど高齢者がたくさん集まる市民公開講座があることを知り、行政に許可と協力をいただき今年初めて参加し活動する事にしました。





## 10月20日(日) アストくにさきアストホール 【フレイル予防のための市民講座】

講師 国東市民病院 副院長 嶋田直宏先生

この市民公開講座に、国東市薬剤師会から啓発活動の為に6名が参加しました。

この講座は昨年より大好評の為、早くから開演を待つ人がたくさん並んでいる状況でした。この時間をお借りして6名で分担して活動をしました。開演を待つ時間にお渡ししたパンフレットに目を通してくれる方、自分が今飲んでいる薬について質問される方、食事との関係について質問される方などがいました。思っていた以上の反応があり驚いたところです。残念ながら、今回は十分な準備ができなかった為多くの方々の相談に応じる事ができませんでした。この市民公開講座は、毎年300~400人の参加

者がいることから来年は行政の許可をいただければ、国東市薬剤師会として「お薬相談」のブースを作る事で、多くの方々の相談に応じる事ができるのではないかと考えています。

この活動を通して、私たち薬剤師が日頃の業務だけでなく地域の特色をよく理解して、地域の方々に積極的に寄り添い活動する事が今後は大切ではないかと思いました。

私事ですが、国東市薬剤師会の会長を引き受けてから2年が経ち、まもなく次の会長へと引継ぎますが、皆さんの協力があり無事終えることができそうです。ありがとうございます。

今後も、地域の方々が安心して暮らせるように皆さんと協力していければと思っています。そして、薬剤師が地域の方々の生活の一助になる事を願っています。



## 杵築速見薬剤師会

会長 菊池 幸助  
(日出調剤薬局)

日 時：令和6年10月19日(土) 15:30～  
場 所：トキハインダストリー 日出店前  
参加者：東部保健所の職員3名  
杵築速見薬剤師会の薬剤師会員18名

当日、トキハインダストリー 日出店前では、東部保健所の職員3名と杵築速見薬剤師会の薬剤師会員18名が参加し、地域住民に対する啓発活動を行いました。活動内容は、薬の適正使用を促す資料に加えウェットティッシュや絆創膏の配布を行い、以下のテーマに関する啓発を重点的に行いました。

### 1. 薬の適正使用の推進

薬は正しく使わなければ健康を損なう恐れがあることから、用法や用量、保管方法の重要性を伝えました。特に高齢者を対象に、ポリファーマシー（多剤服用）の解消や重複投薬の防止、副作用のリスク低減について呼びかけました。

### 2. 薬物濫用防止

青少年に対する薬物濫用の危険性を訴え、健康被害や社会的影響について啓発しました。

活動の直前には雷を伴う大雨が降る悪天候に見舞われましたが、開始時刻の15時30分には雨が止み、活動を実施することができました。参加者全員が明るい笑顔で地域住民と積極的に交流し、啓発活動を通じて地域とのつながりを深めることができました。

今回の活動は、かかりつけ薬剤師・薬局の役割を地域住民に知ってもらう絶好の機会となりました。ただ関わる時間が少なく薬剤師が提供できる健康サポート機能や在宅医療支援、残薬整理などの具体的なサービスについては啓発が行き届かなかったことが残念ではありました。

活動を終えた今、地域住民が薬を適正に使用し、健康の維持・増進を図る一助となることを願っております。また、今後も地域との連携を深め、薬剤師として地域医療の一翼を担っていきたくと考えています。

最後に、今回の活動を支えてくださった会員の皆様、保健所職員の皆様、そしてご協力いただいた地域住民の皆様に心より感謝申し上げます。



## 佐伯市薬剤師会

## 健康フェア開催報告

佐伯調剤薬局 仲矢 侑希子

日 時：令和6年10月27日（日） 10:00～16:00  
 場 所：佐伯地区公民館  
 主 催：佐伯市薬剤師会  
 共 催：佐伯市医師会・大分県栄養士会・（株）アステムほか  
 後 援：佐伯市・南部保健所

令和6年10月27日（日）、薬と健康の週間にあわせ、地域住民を対象に健康意識の向上を目的とした「健康フェア」を開催しました。当日は約200名の方々にご来場いただき、健康に関する正しい知識や情報を提供するとともに、健康測定や相談を通じて日常生活の改善を促す機会となりました。

今回の健康フェアは、次の4つのエリアで構成しました。



## ①講演会場エリア

- ・「薬と口腔ケアの新常識」…鶴岡クリニックの森崎重規院長による講演  
この講演では、口腔環境の健康維持が全身の健康に与える影響について具体的な事例を交えながらの説明があり、参加者から高い関心を集めました。
- ・「薬とリスクと健康と!？」…薬剤師会有志による寸劇  
健康に関する身近なテーマにユーモアを交えて分かりやすく伝え、多くの笑顔が見られる場面もありました。
- ・「最近調子はどげえかえ」…南部保健所の職員による講演  
地域の健康課題に基づいた具体的なアドバイスが提供されました。



## ②職業体験エリア

- ・学校薬剤師体験…塩素濃度測定やCO<sub>2</sub>測定などを通じて薬剤師の仕事を体験してもらいました。
- ・「Pharma Quest～未来を創る薬剤師たちへ～」…薬剤師の仕事やその意義についてお話ししました。中高校生の参加者からは「薬剤師という仕事に興味湧いた」といった声が寄せられ、将来のキャリア選択を考えるきっかけとなりました。



## ③救急車体験エリア

- ・災害時に活用されるモバイルファーマシー（災害対策医薬品供給車両）の展示…災害時における医薬品供給の重要性や具体的な運用方法についての説明があり、地域住民の防災意識向上にも寄与しました。



## ④企業出展エリア

・測定体験…血管年齢・骨密度・心電図測定やベジチェックを体験してもらい、自身の健康状態を数値で確認し、食生活についてのアドバイスを受けることで生活習慣の具体的な改善のヒントを得ていました。



来場者からは「健康意識が高まった」「薬剤師会の活動がよくわかった」といった感想が寄せられました。また、「家族で楽しめるイベントだった」「毎年このイベントを楽しみにしている」といった声もあり、地域の恒例行事として定着しつつあることが感じられました。

一方で、事前告知の期間が短かったため、一部ターゲット層へのリーチが不足した点や、エリア間でプログラムが重複し参加者が戸惑う場面が見られたため、課題点となりました。

こうした課題を踏まえ、次年度以降は会場を1か所に集約し、イベント数を調整することで来場者の動線を明確化したいと思います。また、告知開始を2か月前に早め、SNSや地域メディアを活用した広報強化を図ることで、より多くの地域住民に情報を届けたいと考えています。

今回の健康フェアは、地域住民が健康について考える良い機会となっただけでなく、地域医療機関や関連団体との連携を深める重要な場となりました。薬学生にもお手伝いとして入ってもらい、地域の健康促進に貢献するきっかけにもなったと思います。次年度以降も継続して健康フェアを開催し、さらには地域単位での小規模イベントや新たなテーマ（例：食育）の導入を検討し、多様なニーズに応えられるイベントを作っていきたいと思います。

ご協力いただいた皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。



## 大分県薬剤師会薬事情報センター

### 令和6年度 おくすり110番報告

本年度も「薬と健康の週間」で、大分県薬剤師会における「おくすり110番」が実施されましたので結果を報告致します。

今年度も昨年同様、午前、午後各1名の対応とし、日曜日を除き6日間相談を実施しました。21件の相談があり、7割以上の15件が女性でした。

今年度は50歳以上の相談者が全体の9割にあたる19件でした。17日の新聞掲載や、大分駅周辺で実施した啓発活動がニュースで放送された影響が大きく、17日、18日の2日間で相

談が11件でした。また、20日（日）に新聞記事が掲載され月曜日が相談4件でした。

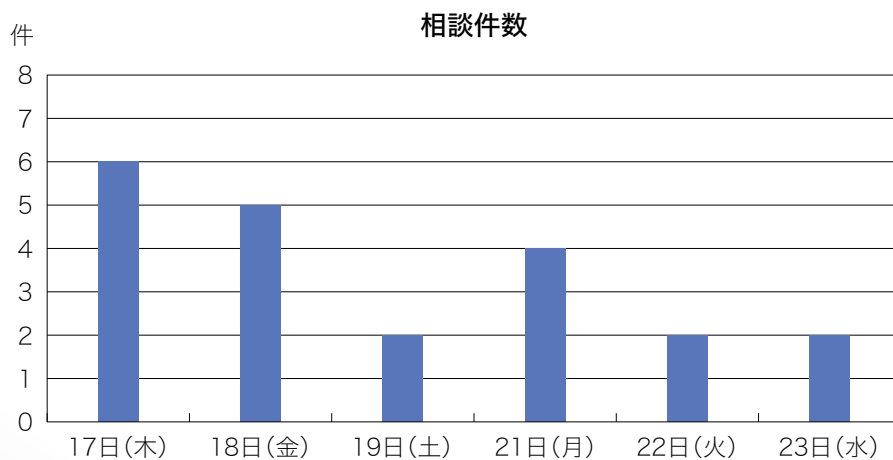
相談内容では、薬を継続することや治療法への不安などに関する質問が多く、情報が氾濫する時代の中で患者が正しい情報を知りたいと思う気持ちを痛感しました。市販薬との飲み合わせについてや薬の副作用に関する質問も寄せられました。

会員の皆様にはご多忙の中、ご協力賜わり厚く御礼申し上げます。

#### 統計データ

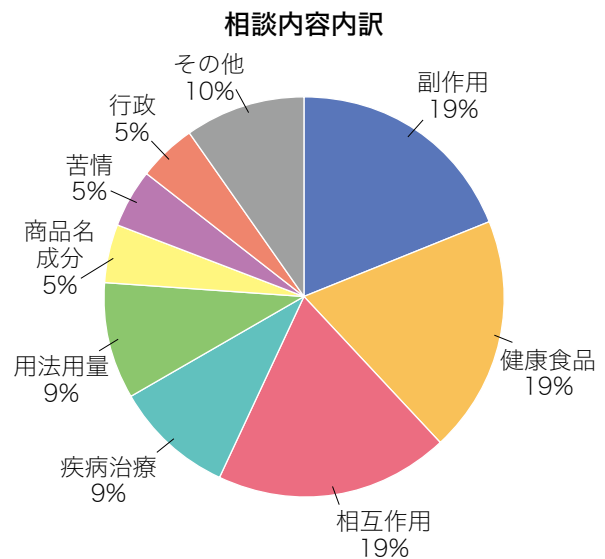
##### 1. 相談件数

	17日(木)	18日(金)	19日(土)	21日(月)	22日(火)	23日(水)	合計
午前件数	2	2	1	3	2	1	11
午後件数	4	3	1	1	0	1	10
合計件数	6	5	2	4	2	2	21



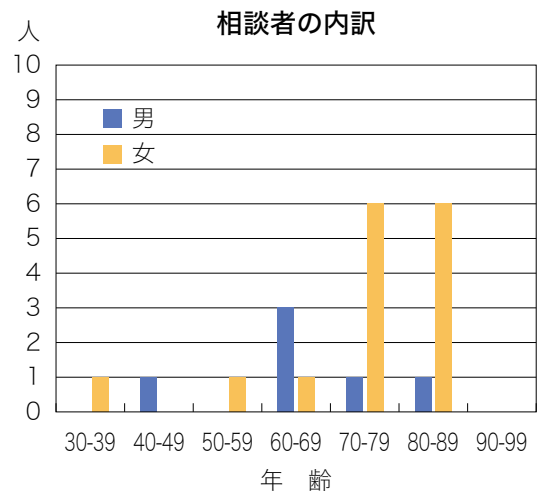
## 2. 相談内容内訳

相談内容	件数 (延べ)
副作用	4
健康食品	4
相互作用	4
疾病治療	2
用法用量	2
商品名成分	1
苦情	1
行政	1
その他	2
計	21



## 3. 相談者の内訳

年齢	男	女
30-39	0	1
40-49	1	0
50-59	0	1
60-69	3	1
70-79	1	6
80-89	1	6
90-99	0	0
計	6	15



## 4. 過去6年間の相談件数推移

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件数	10	11	12	24	17	21

## 令和6年度 県民公開講座 お薬セミナー

情報委員会 委員長 安部 憲廣  
(東中の島調剤薬局)

日 時：令和6年10月20日（日） 14:00～16:00  
場 所：大分コンパルホール4階 400会議室  
一般講演：令和6年が終わるまでに知っておきたい薬のこと  
講 師：大分県薬剤師会 情報委員会 副 守尋 先生  
特別講演：笑いはおくすりパート3・健康寿命日本一を目指して  
講 師：おおいた観光特使 佐伯市宇目町鷹鳥屋神社宮司 矢野大和 先生

大分県薬剤師会からののお知らせ～簡易心電図測定で早期発見、早期受診～  
簡易心電図測定体験（矢野大和先生と参加者で）

参加人数：63名（情報委員会薬剤師：14名含む）参加

大分県薬剤師会情報委員会 副 守尋先生の一般講演は「令和6年が終わるまでに知っておきたい薬のこと」について、とてもわかりやすくお薬について参加者に説明されました。

おおいた観光特使 佐伯市宇目町鷹鳥屋神社宮司 矢野大和先生の「笑いはおくすりパート3・健康寿命日本一を目指して」特別講演は、

宮司でもある演者が巧みな話術で来場者の笑いの閾値を低くさせ、参加者も興味津々で最後まで熱心に聞き入っていました。

最後に講師の矢野大和先生も参加して、会場の参加者と一緒に簡易心電図測定器で実際に計測を実施しました。

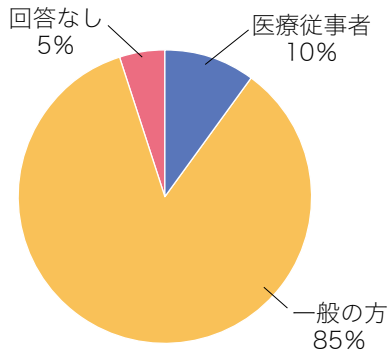




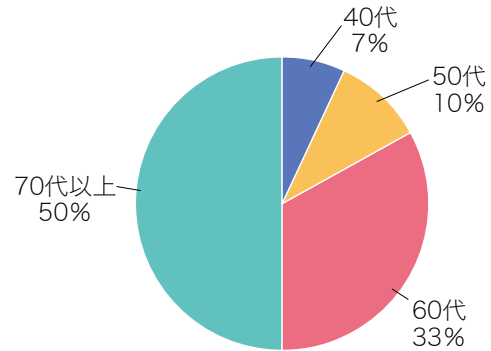
## 令和6年度 研修会 アンケート結果

会場アンケート回収率(薬剤師除く):40名/49名(82%)

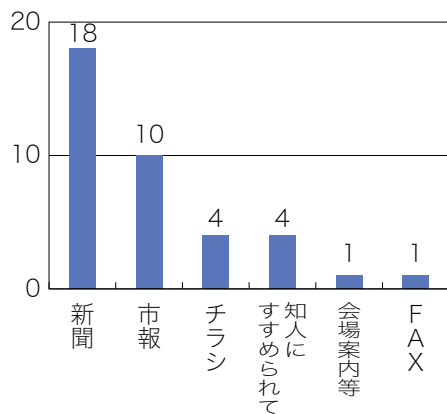
### 回答者内訳



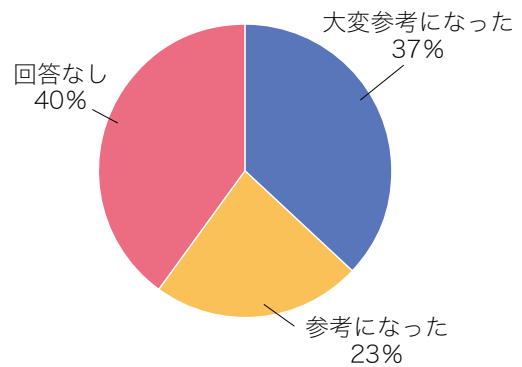
### 回答者年齢



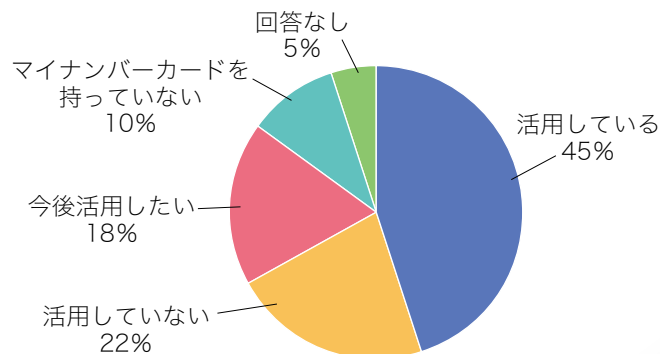
### 講座を何処で知りましたか？



### 本日の講演会の内容はいかがでしたか？



### マイナンバーカードに付帯する健康保険証を活用していますか？



# シリーズ 薬薬連携

ヨシムラ薬局 大隈 亮典  
(別府市薬剤師会)

薬薬連携という言葉が、我々薬剤師の中で浸透してから久しいですが、今、その言葉が再フォーカスされてきていると感じます。近年、病院中心の医療から在宅や地域中心の医療へと移り変わってきています。また、高齢化が進むにつれ、複数科を受診していた患者さんが、退院後に外来や在宅、介護施設などへ移るために、服薬情報の継続的管理が必要となっているからです。このような中で、薬剤師が地域包括ケアの一翼を担い、医療機関や多職種との連携を行い、職能を発揮できることが理想です。

しかしながら、薬薬連携と言われて「私たちはこんなことをしています！」と言える薬剤師は少ないのではないのでしょうか。大分県内では慢性的な薬剤師不足が続いていて退院時共同指導や多職種との連携会議に参加したくても通常業務が滞ってしまう…、近隣には退院時の指導等を行うような大病院はない…、連携はケアマネージャーなど他職の主導で行われていて、誘われなければ開催も知らない…などが主な理由ではないのでしょうか。

最近では別府市でいう「ゆけむりネット」や大分市でいう「おおいた医療ネットワーク」などを使った医療連携が可能になってきました。しかしながら、本格的に患者さん全員がすべての情報をという状態になるにはまだまだ時間がかかりそうです。

私は、町の薬局の一薬剤師として「薬薬連携を、今日から、簡単なことから、薬局側から」ということをテーマに事例を挙げてみたいと思います。

## 事例1) 不動在庫と入手困難

コロナ禍以降、病院でも薬局でも、入手困難な薬剤が増えています。入手できても来週になる、ですとか発注履歴のあるところになしに卸せませんと言われることもあります。返品に関しても、卸さんからの期間ルールが厳しくなってきた上に、選定療養で選ばれなくなってしまった先発品の開封済み在庫たち…。

私はまず、そのことを正直に先方の医療機関に情報提供することになりました。

退院時に院内処方ができても、薬局で継続調剤できなくては治療上困ります。

また、入荷情報があれば、病院側が足りない薬剤を薬局に借りにくることもできます。

事前に「この薬は入荷していない」「この薬なら多く在庫がある」と通知しておくことで、お互いに薬剤入手困難による処方変更依頼の疑義照会の時間と作業が省けるというメリットも生まれました。

また、返品できない薬に関しても、院内で使用可能である場合も多くあります。医療機関側からは販売ができないのでそれは申し訳ないところではありますが、薬局から小分けで薬剤が買えるというのは医療機関にとっても便利なのではないのでしょうか。

**事例2) 新規採用薬や医師登録が必要な薬剤の事前発注**

医療機関側で新規に採用になった薬剤を薬局に事前にお知らせいただくことで、薬局では処方前に発注対応ができ、治療に穴をあけることなく処方の継続が可能になります。入院先の病院で使用していた珍しい薬であったり、医師が使いたいと仰っている薬をお知らせいただくことは、どのような門前薬局からも今すぐに依頼可能な連携ではないでしょうか。

**事例3) プロトコルに基づくトレーシングレポート**

これは事前に医療機関と打ち合わせが必要になりますが、一番処方せん受付枚数の多い医療機関と取り決めを行い、治療に影響のない範囲の残薬調整や剤形・規格変更や一包化等の情報をFAXで事後報告するシステムです。医療機関側も都度疑義照会の電話対応をしなくて良いほか、「残薬が何日分あった」「他科の薬がたくさんあり2科一包化になった」「OD錠は味が嫌で飲めない」等の情報を正確に知ることができます。薬局側も、「在庫のない10mgの薬剤を発注して2錠ずつ」ではなく「在庫のある20mgの薬剤を1錠ずつ」と変更することで、在庫の負担を減らすことができ、患者さんにとっても飲む薬の数を減らすことができます。

私が今回挙げた3つの事例は、本当にささやかで、薬薬連携とは言えないのでは？と仰る方もいることでしょう。しかし、薬薬連携の本質は「患者さんのために」あると思います。どんな環境下でも安心して治療が継続できること、体がきつい中での待ち時間が少しでも短くなること、医療機関と薬局が密に連絡を取れていること。それこそが、みんなが望む医療だと思います。

大きな取り組みを考えて踏み出せないよりも、小さな一歩から大きな輪に広がっていくことこそ大切なのではないのでしょうか。



## 大分市薬剤師会 令和6年度 大分市薬剤師会防災訓練報告

防災委員会 委員長 伊藤 裕子

日時：令和6年11月10日（日） 10:00～12:00  
場所：大分市薬剤師会  
参加者：大分市薬剤師会 役員12名  
内容：大分市薬剤師会本部機能のシミュレーション

大分市薬剤師会では毎年、防災訓練として、役員による参集訓練やモバイルファーマシーの使用方法、非常食の作り方などの訓練を実施してきました。

今年度は11月10日に、福岡大学薬学部の江川孝教授（専門分野：災害医療・災害薬事）を講師にお招きし、実際に災害が起こった時の大分市薬剤師会本部機能のシミュレーションができるような机上訓練を実施しました。

まず、「大規模災害に対する組織対応」として「大規模災害発生時に護るコト・モノは何か」「大分県内の災害拠点病院はいくつあるか」「大分市が想定している災害は何か」「災害救助における医療活動には、どのような職種・団体が関わるか」との設問に対する討議を2つのグループに分かれて実施しました。具体的な設問に、私たちが本部でしなければならないことが見えてきました。大分市災害対策本部の組織表をご提示いただき、私たちが大分市役所のどこの部署に声をかけたら良いのか、どこと連携すれば良いのかを平時の今、ゆっくり考えることができました。平時からの顔の見える関係作りは災害時に大切なことです。例えば、災害時に保健医療班になるのは、市民課、保健総務課、衛生課、保健予防課、健康課の方々ということが、今回の訓練

でわかりました。平時もお世話になっている課なので、意識して関係作りをしておこうと思います。

その後、災害時の初動と共通言語について詳しくご教示いただきました。共通言語となる「CSCAPPP」とは、CSCAで薬事体制の確立をし、PPPで薬事サポートの実践をすることで。下記に概略を紹介します。

C：Command&Control 指揮と連携

…指揮系統の確立と連携先の確認

S：Safety 安全

…安全の確保・維持

C：Communication コミュニケーション

…通信の確保、情報の共有・連携

A：Assessment 評価

…評価：見る→わかる→きめる→うごく  
→見る

Pharmaceutical Triage 薬事トリアージ

…薬物療法のサポート順位決定

Preparation 準備・調剤

…ヒト・モノの準備・調剤/公衆衛生

Provide Pharmaceuticals 供給

…ヒト・モノ・情報の提供

今回までは役員のための防災訓練でしたが、今後は、大分市薬剤師会の班活動を活かした、会員による防災訓練も実施したいと考えています。



## 豊後大野市薬剤師会 大分県総合防災訓練報告

龜島亀齡堂薬局 吉廣 篤郎

**日時**：令和6年9月29日（日） 8:30~12:30  
**場所**：犬飼公民館 モバイルファーマシー前  
**参加者**：大分県薬剤師会 災害対策委員会 3名、豊後大野市薬剤師会 7名  
**内容**：救護所運営訓練、近隣住民に講話、モバイルファーマシー展示

モバイルファーマシー（災害対策医薬品供給車両）は、私にとって初見でした。

研修、訓練について、まず模擬患者さんに問診します。その後、処方された医薬品を災害備蓄医薬品一覧表（モバイルファーマシーに搭載されている医薬品一覧表）から探し、レセプトコンピューターに入力します。そして、調剤し、服薬指導を行います。

災害現場に行き、ボランティア活動を行った薬剤師による経験談です。大変だったことはいろいろある中で、特に災害備蓄医薬品一覧表にない薬の確保や処方医に代替医薬品の提案とのことでした。

その内容は、ライフラインが回復していない中、卸売販売業者にかけあい、いつ届くのか、薬を必要としている患者さんの手元へ届けることに奮闘したことや代替品提案時、電話がつかない状況では、処方医がいる場所まで奔走したことです。

災害時、一番大事なことは、お薬手帳です。どの薬を服用しているか記憶に限界があるため、お薬手帳により作業の効率は勿論のこと正確に必要な薬を届けられるためです。また、大規模災害時において、医師等の受診が困難な場合、又は医師等からの処方箋の交付が困難な場合に

は、薬剤師が医師等の処方箋なしに医薬品を患者さんに授与できる場合もあります。災害時にお薬手帳を忘れずに持ち出すことが重要です。

モバイルファーマシーは、災害時やライフラインが途絶えた状況でも薬局としてある程度の機能を果たすことができます。また、過疎地域や人口が少ない地域でも医療資源をサポートできます。

モバイルファーマシーの内部は、調剤台や医薬品棚や小型分包機や薬品保管庫等、調剤室としての基本的な機能に加えバッテリーや発電機や給水タンク等の設備も搭載しています。ただし、モバイルファーマシーに搭載できる医薬品は限られておりますので、患者さんへの代替品のアプローチが大切と考えております。また、研修を受けた薬剤師数は、まだ災害薬事コーディネーターの登録者40名、大分県薬剤師会災害支援薬剤師の登録者92名のとおりでございます。まだまだ人材が少ないです。

全国各地で地震、水害などの災害が起こっています。いつどこで起こるか分からない災害に備えるため、災害対策委員会を中心に研修、訓練などを行っています。研修、訓練経験を積んだ薬剤師を増やすため、多くの薬剤師に参加していただきたいです。



# 検査センター だより

## Contents

2025年1月

公益社団法人大分県学校給食会  
「令和6年度夏期衛生管理講習会」に協力しました

2024年度 連絡調整会議の開催について

ハラスメント研修会の開催について

居酒屋かじ原ーその2ー 蕎麦・うどん編

TEL 097-544-4400 FAX 097-546-8190

URL <http://www.oitakensa.jp/>

E-mail [soumu@oitakensa.jp](mailto:soumu@oitakensa.jp)

## 公益社団法人大分県学校給食会 「令和6年度夏期衛生管理講習会」 に協力しました

大分県内の「学校給食用のパン及び米飯」は県内約20工場で製造され、各学校へ届けられています。大分県学校給食会では、これらの委託工場の代表者、運営管理責任者等を対象に、衛生管理意識のより一層の向上と良質かつ安全な学校給食用物資の供給確保を図ることを目的として、毎年、衛生管理講習会を実施しています。今回は、異物混入に関する内容とHACCPの考え方を取り入れた衛生管理を主に、「食品製造における異物混入防止対策」というテーマで、食品環境課から伊東課長補佐が講義をいたしました。

### <講習会 次第>

- 日 時：令和6年8月20日（火） 13:30～14:30  
場 所：（公社）大分県学校給食会 2階会議室
- 1、開会 理事長挨拶
  - 2、講義：食品製造における異物混入防止対策
  - 3、質疑応答
  - 4、閉会

食品製造の現場で多い異物としては、ねずみやゴキブリ等の害獣や害虫、毛髪等の動物性異物、金属片やガラス片等の鉱物性異物、ビニールやプラスチック片等の合成樹脂、その他にも、たわしや木片、食材由来のものもあります。それらの種類ごとに、どう対策をするかについて、お話をしました。例えば、害獣や害虫の混入を防ぐためには、工場内だけでなく工場外にも目を向ける必要があります。ゴミは適切に処理しているか、植物や水たまりが多く虫が湧いたり寄ってきたりしやすい環境にないか等。また、微細な隙間から虫は侵入してきます。ちょっとしたすき間を塞ぐというのも重要です。具体的にどのような道具を利用するとよいか等、実例を挙げて説明をしました。その他、異物を減らすための対策や、混入してしまった異物を見つけるためにどうするかについても写真を交えて、紹介をしました。

今後も研修会などを通じ、県内のお客様のお役に立てるよう努めてまいります。



講習会の様子





## 2024年度 連絡調整会議の開催について

当検査センターでは、市町村の水道及び飲用井戸担当課、組合営簡易水道及び専用水道、市町村教育委員会の各担当者を対象にそれぞれ毎年、連絡調整会議を開催しています。

新型コロナウイルスの流行を境に県薬会場と関係機関とをオンラインで結ぶWeb会議で行っています。

まず、9月13日（金）に市町村教育委員会の担当者を対象に学校環境衛生検査に係る会議をWebにて開催しました。当会の中芝県薬会長による開会挨拶の後、大分県教育庁体育保健課 学校保健・食育班の黒木主査から「学校環境衛生について」ご講演いただきました。学校環境衛生基準の法的根拠や目的、学校環境衛生活動における学校関係者の役割、学校環境衛生活動の進め方など様々な視点からの講演をいただきました。

また今年度は、議題として当検査センターから「空気給食調理施設の衛生管理について」「2025年度「学校環境衛生基準」検査項目及び手数料について」の2題について、説明をさせていただきました。



大分県教育庁体育保健課 学校保健・食育班 黒木主査の講演

次に、10月4日（金）は、市町村の水道及び飲用井戸担当課関係者、組合営簡易水道及び専用水道関係者を対象に水道水質検査等に係る会議を県薬会場とWebのハイブリッドで開催しました。当会の中芝県薬会長による開会挨拶の後、環境省 水・大気環境局 環境管理課水道水質・衛生管理室の宇津木基準係長から「水道水質管理について」ご講演をいただきました。令和6年4月から生活衛生等の機能強化を図るため、水道法等における権限を厚生労働大臣から国土交通大臣に移管となった改正の概要や世界最高水準の水道サービスの提供を実現している、水道事業者の浄水技術や検査体制の充実、継続的な監視等についての講演をいただきました。当検査センターも、水道水質検査の登録検査機関として県内の水道事業を支えています。登録検査機関で実施する水質検査は、水道の安全を確認する重要なものであることから、信頼性の高い検査の実施が確保できるよう、適切な水質検査の徹底が求められています。改めて、安全安心な水道を提供する水道法を学ぶ良い機会となりました。

当検査センターからの議題として、「水質検査試料採取及び運搬方法について」「2023年（令和5年）度外部精度管理結果と水道水中の異物検査について」「2025年度 水質検査計画策定について」ご説明させていただきました。

両日ともWeb開催をしておりますが、移動時間がなくて済むなど担当者の業務の支障を最小限に抑えることができ好評となっています。



中芝県薬会長による挨拶



環境省 水・大気環境局  
環境管理課水道水質・衛生管理室宇津木基準係長の講演

当検査センターでは、このような機会を通して最新の関係情報をお届けするとともに、水道法の登録検査機関として、今後も皆様から安心して水質検査をご依頼いただけるよう質の高いサービスの提供に努めてまいります。

# ハラスメント研修会の開催について

2020年（令和2年）6月1日から、職場におけるハラスメント防止対策が強化され、パワーハラスメント防止措置が事業主の義務となりました。（中小事業主は、2022年（令和4年）4月1日から義務化）  
これを受け、2024年10月28日（月）に大分県薬剤師会館において、「ハラスメント研修会」が開催されました。講師として、「みらい社会保険労務士法人 代表 城 敏徳」様を招き、参加者約60名が熱心に耳を傾けていました。

## 【事業主及び労働者の責務】

### 1. 事業主の責務

- ◆ 職場におけるパワーハラスメントを行ってはならないこと等これに起因する問題（以下「ハラスメント問題」という。）に対する労働者の関心と理解を深めること
- ◆ その雇用する労働者が他の労働者<sup>\*</sup>に対する言動に必要な注意を払うよう研修を実施する等、必要な配慮を行うこと
- ◆ 事業主自身（法人の場合はその役員）がハラスメント問題に関する関心と理解を深め、労働者<sup>\*</sup>に対する言動に必要な注意を払うこと

### 2. 労働者の責務

- ◆ ハラスメント問題に関する関心と理解を深め、他の労働者<sup>\*</sup>に対する言動に注意を払うこと
- ◆ 事業主の講ずる雇用管理上の措置に協力すること

※取引先等の他の事業主が雇用する労働者や、求職者も含まれます。

## 【講演者】

みらい社会保険労務士法人  
特定社会保険労務士 代表 城 敏徳



## 【経歴】

1962年 大分市生まれ  
1981年 大分県立大分上野丘高校卒業  
1985年 愛媛大学法学部卒業  
1992年 社会保険労務士資格取得  
1993年 社会保険労務士事務所開設  
1996年 大分大学大学院修了  
2006年 特定社会保険労務士資格取得



研修会の様子①



研修会の様子②

## 居酒屋かじ原 - その2 -

### 蕎麦・うどん編

十数年前に「年越し蕎麦を自分で打てるようになりたいなあ」と思ったことがきっかけで、必要最低限の蕎麦打ち道具をポチってスタート。以来、少しずつ道具を買い足したり、バージョンアップしたりしながら、県北の中津市耶馬溪や豊後高田市で採れる、春・秋の新蕎麦の時期に香り高い蕎麦粉を求めて、年越し蕎麦だけでなく年に数回、手打ち蕎麦の味を楽しんでいます。

私が始めた頃はDVDの動画を見ながら打ち方を覚えたのですが、現在は、蕎麦道場で手打ち体験ができるほか、YouTubeを見ると様々な打ち方が公開されていて、蕎麦打ちにチャレンジしてみたいと思っている方には、環境が整っています。

私は繋ぎの小麦粉を2割混ぜる、「二八蕎麦」を主に打っています。繋ぎを全く混ぜない「十割」にもチャレンジしましたが、水加減が難しく、初めは「二八」がお勧めです。

慣れるまでは、打ちやすい量として蕎麦粉500gと小麦粉100gが適当でしょう。



これらを捏ね鉢（こねばち）に入れてよく混ぜて、分量の水を数回に分けて加え、粉に水分を行き渡らせませす。これを「水回し」と言いますが、この工程を素早く、そしてしっかりと行うことが、蕎麦の仕上がりを左右します。

しっかりと水回しができたら生地を練って、くくって（まとめる）、丸出し、角出し、幅出し、仕上げのしと、のしの工程を経て、厚さ1.5mm程になれば畳んで切ります。



手打ち蕎麦を美味しく味わうには、蕎麦粉そのものの風味も大切ですが、出汁の風味も重要です。鰹節・鯖節、昆布の産地や種類、醤油のメーカーや種類なども、色々と試してみるのもいいと思います。



さて居酒屋と言えば、江戸時代から蕎麦を食べる前に日本酒を飲みながらつまみを食べるという江戸の風習があって、時折、真似事をやっています（笑）。

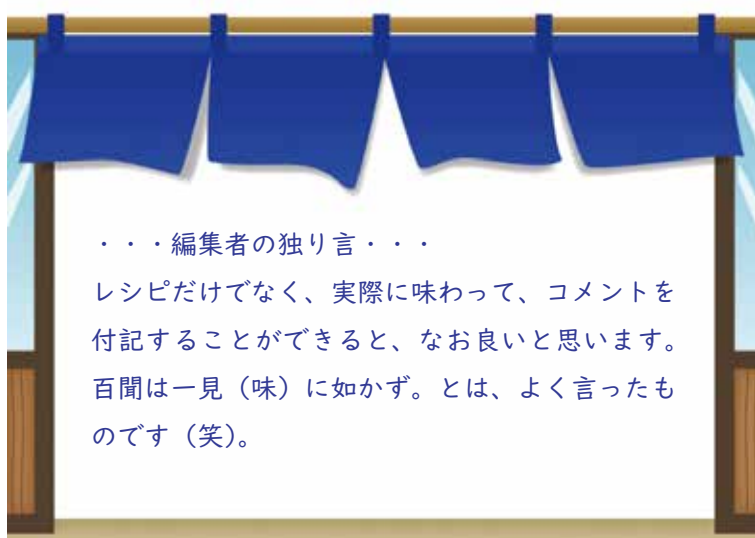
蕎麦屋さん定番のつまみである「板わさ」や「出汁巻き卵」のほか、焼いた魚の干物、手づくりの蕎麦がきなどで、お酒を楽しんでいます。



また、ある時はうどんの手打ちも試みました。蕎麦とうどんの違いは、うどんは小麦粉に塩を加え、足で踏んだりしてよく捏ねて、乾燥を防ぎながらしばらく寝かせて、のしの工程に入ることです。



この日は、牛切り落としと玉ねぎを甘く煮て、肉うどんを堪能しました。



# O.P.A 薬局 だより

## Contents

2025年1月

O・P・A薬局なう

〒870-0855 大分県大分市豊饒二丁目10番9号  
TEL 097-544-0234 FAX 097-544-0245  
URL <http://www.oitakenyaku.or.jp/opa/>  
E-mail [opa@oitakenyaku.or.jp](mailto:opa@oitakenyaku.or.jp)

## O・P・A薬局なう

大分県薬剤師会の会員の皆様には平素よりお世話になっております。今回のO・P・A薬局だよりを担当させていただく都甲と申します。

今回はO・P・A薬局で3期の薬学部実務実習生の受け入れをした際の、報告を書かせていただきます。

令和6年8月19日（月）～11月1日（金）の11週間、実習生にはO・P・A薬局で実習してもらいました。当薬局では昨年に続いて2回目の実習生の受け入れとなりました。

昨年の反省点としては、実習生に服薬指導してもらった回数が少なかったこと、混雑時に指導が難しい際の自己学習の課題の質の2点を挙げていました。

その2点に関しては今回、改善することができて、服薬指導実施回数は昨年の8回から19回に増えて、課題に関しても疑義照会問題、漢方薬の問題、国家試験で問われやすい用法・用量に関する問題、処方薬の処方意図に関する問題など事前に用意して実習生に取り組んでもらいました。

またその他に昨年との比較で実習内容として取り入れることができたのは在宅業務です。当薬局では昨年は50件に満たない在宅件数でしたが、今年度は160件前後の在宅業務をしています。おのずと在宅に同行可能な回数も増えました。

今回受け入れた実習生は地域密着型の薬局を見たいという希望があって在宅業務に関する興味も非常にあるとのことでしたのでその点は良かったと感じています。

やはり外来での服薬指導と在宅での服薬指導は全然違うという感想をもってくれました。実際に在宅訪問することで得られる情報量は違います。その患者さんの背景（家族構成や服薬状況など）や自宅では実際にどのように過ごしているか等の外来では見えない情報も得ることができます。その情報から問題点の有無を精査して次回以降の訪問時に活かす必要があるので、

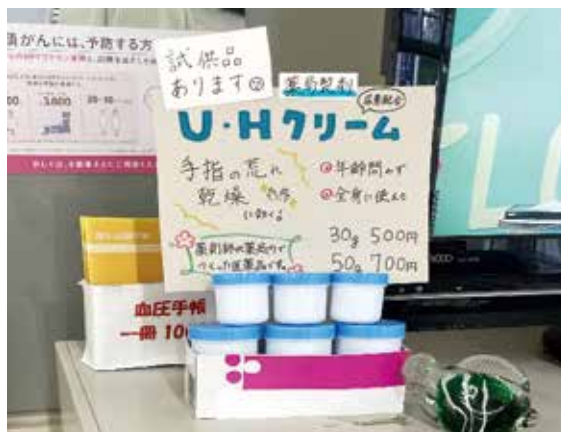
しっかり外来と在宅の違いを感じ取ってくれていたようでした。

また当薬局では事前にスケジュールを組んでおり、それぞれ薬剤師に担当してもらった項目を設けていました。OTC、がん連携について、吸入指導、麻薬、無菌調整、中学生向けの講演会、学校薬剤師業務等、それぞれの職員が事前に用意した内容に沿って講義をしてもらいました。どの項目も実習生からの満足度は高く、次回以降も取り入れたいと考えています。

また今回も大分市薬剤師会様、薬品メーカー様、卸様に協力していただき講義を受けたり、見学をさせていただきましたが、実習生にとって非常にいい経験になったと思います。改めてお礼申し上げます。

実習の最後に実習生には当薬局で11月から販売する薬局製剤（U・Hクリーム）のポップ作成に取り組んでもらいました。とても可愛いく仕上がっていて、感激しました。

販売の方も12月現在、多くの患者さんの目にとまるようで売れ行きも好調です。実務実習11週間お疲れ様でした。そして今回の実習に協力していただいたスタッフ、薬剤師の皆様、本当にありがとうございました。



（都甲 大介）